



届いた絵本を手に取る子ども。宮城県亘理町で、丸山博撮影



福島市の平田幼稚園の園児から届いた感謝の手紙。望月亮一撮影

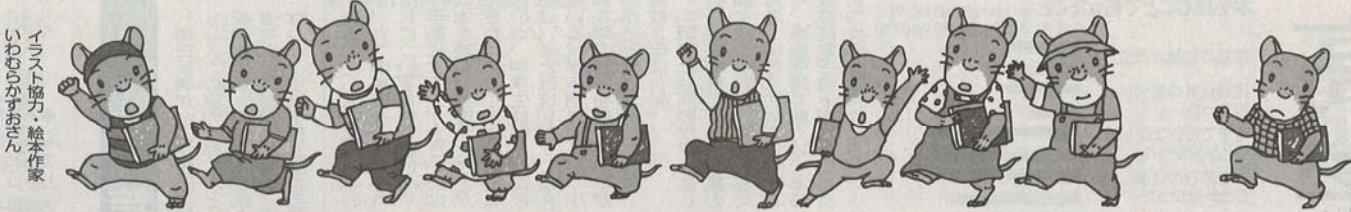
# 被災地へ本と笑顔を

11月9日までの「読書週間」。多くの本が読めなくなったり、流失したりした東日本大震災の被災地へ、子どもの本を送る支援活動が、発生直後から全国各地で始まった。活動の一つで、毎日新聞が財団法人大阪国際児童文学館（東大阪市）などを取り組む「いっしょだよ」キャンペーンの経過と現状を報告する。

## 保育園など75施設に400冊寄贈

「プー!」。男の子がガム風船を膨らます絵本のシーンを、園児約40人がくいているように見つけた。9月16日、キャンペーンの第1次配布で約50冊の本が届いた福島県伊達市の市立保原幼稚園。同行し

た同文学館の土居安子主任専門員が絵本を「ガム」(福音館書店)を「モリス」に朗読すると、園児らは「もっと!」とせがんだ。園児らは震災直後から放射線物質の除染が済んだ9月初めまで、園庭で遊



イラスト協力・絵本作家 いわむらかずおさん



キャンペーンで届いた本と一緒に読む子どもたち。福島県伊達市の市立保原幼稚園で、反橋撮影

### ◇「いっしょだよ」キャンペーンで贈る本の例◇

「しろくまちゃんのほっとけーき」	わかやまけん作	こぐま社
「バルンくん」	こもりまこと作	福音館書店
「あかいふうせん」	イエラ・マリ作	ほるぷ出版
「14ひきのひっこし」	いわむらかずお作	童心社
「十長生をたすねて」	チェ・ヒャンラン作	岩崎書店
「キャベツくん」	長新太作	文研出版
「くまの子ウーフ」	神沢利子作	ポプラ社
	井上洋介絵	
「おとぎばなしはだいぎらい」	ジャクソン・ウィルソン作	偕成社
	ニック・シャラット絵	
「ぼくたちとワッフルハート」	マリア・パル作	さ・えら書房
「バッテリー」	あさのあつこ作	教育画劇
「都会のトム&ソーヤ1」	はやみねかおる作	講談社
「魔法使いハウルと火の悪魔」	ダイナ・ワイン・ジョーンズ作	徳間書店

キャンペーンは市民から募った寄付金で新しい本を購入し、配本を希望する施設や団体に贈る計画で、4月26日に始まった。他の主催団体は、毎月末時点で2142万円が

べなかつた。矢張り園長は「絵本に興味を持つ、いきつかけになった」とほほえんだ。

福島の市立平田幼稚園からは、カラフルな絵や「えほんありがとう」と書かれた園児の手紙が届いた。職員は「子どもたちは届いた本を競い合うように読んでいます」と語る。土居主任専門員は「気持ち

が和んだり、生きていてよかったと感じられる本を選びたいと考えていた。贈った本が一冊でも面白いと思ってもらえたらうれしい」と話す。

福島の市立平田幼稚園からは、カラフルな絵や「えほんありがとう」と書かれた園児の手紙が届いた。職員は「子どもたちは届いた本を競い合うように読んでいます」と語る。土居主任専門員は「気持ち

集まった。毎日新聞大阪社会事業部の太田正隆常務理事は「数千円の小口の寄付が中心で圧倒的に女性が多い。『子どもに本が欠かれない』と考える母親が小遣いから出してくれたのでは」と推測する。一方、6月初旬に始めた配布先募集への反響は当初、小さかった。キャンペーン事務局が被災自治体に呼びかけた「被災者対応などで忙殺され、役所自身が被災したこともあって対応しきれない様子だった」という。

「戸外で遊べないため、絵本を充実させたい」と福島県内の保育園などから手が挙がり始めたのは約3週間後、7月中旬ごろから宮城、岩手両県の沿岸部からも声がかかるようになった。秋からペースが加速し、10月15日までに約280カ所の応募があった。活動では配本先の児童の年齢などに応じて良質な本を選び、カバーを付けて配布している。これまでは、9、10月の2回にわたって、4都県75カ所の保育園、幼稚園、小中学校などに約4000冊を贈呈。続々と喜びの声が届いている。

福島の市立平田幼稚園からは、カラフルな絵や「えほんありがとう」と書かれた園児の手紙が届いた。職員は「子どもたちは届いた本を競い合うように読んでいます」と語る。土居主任専門員は「気持ち

が和んだり、生きていてよかったと感じられる本を選びたいと考えていた。贈った本が一冊でも面白いと思ってもらえたらうれしい」と話す。

福島の市立平田幼稚園からは、カラフルな絵や「えほんありがとう」と書かれた園児の手紙が届いた。職員は「子どもたちは届いた本を競い合うように読んでいます」と語る。土居主任専門員は「気持ち

が和んだり、生きていてよかったと感じられる本を選びたいと考えていた。贈った本が一冊でも面白いと思ってもらえたらうれしい」と話す。

福島の市立平田幼稚園からは、カラフルな絵や「えほんありがとう」と書かれた園児の手紙が届いた。職員は「子どもたちは届いた本を競い合うように読んでいます」と語る。土居主任専門員は「気持ち

が和んだり、生きていてよかったと感じられる本を選びたいと考えていた。贈った本が一冊でも面白いと思ってもらえたらうれしい」と話す。

福島の市立平田幼稚園からは、カラフルな絵や「えほんありがとう」と書かれた園児の手紙が届いた。職員は「子どもたちは届いた本を競い合うように読んでいます」と語る。土居主任専門員は「気持ち

が和んだり、生きていてよかったと感じられる本を選びたいと考えていた。贈った本が一冊でも面白いと思ってもらえたらうれしい」と話す。

福島の市立平田幼稚園からは、カラフルな絵や「えほんありがとう」と書かれた園児の手紙が届いた。職員は「子どもたちは届いた本を競い合うように読んでいます」と語る。土居主任専門員は「気持ち